



令和4年
1月

学校だより

小野市立中番小学校
校長 田中康善

2021年を振り返って
★続くコロナ禍、「学びを止めない」の堅持。

2021年も、新型コロナウイルス感染症の影響を地球的規模において受け続けました。しかし、令和2年度のように学校が臨時休校になるといふこれまででない異常事態となることはありませんでした。これは本当によかったことだと思います。しかし、兵庫県にも令和3年4月5日に「まん延防止等重点措置」が適用され、そして、緊急事態宣言再発出と再延長と幾度となく翻弄されました。学校は2020年の臨時休校措置を経験し「学校の新しい生活様式」に基づく感染対策が行われていたことから学校現場での混乱は少なかったように思います。そのような中、緊急事態宣言下、残念ながらほとんどが無観客とはなりましたが、**東京2020オリンピック・パラリンピックが無事開催されました。**選手たちの活躍が世界の人々を元気づけ、勇気づけ、スポーツの力の強さ、素晴らしさを改めて感じました。学校の教育活動も令和2年度、実施できなかった**夏の水泳学習、運動会(春の開催は叶わず秋の開催)を実施**することができました。5年生の自然学校も2泊3日と昨年度より一泊多くなりました。6年生の修学旅行も予定通りに無事に実施できました。また、7月から9月にかけてコロナ感染「第5波」の流行により、夏季休業延長や短縮授業、分散登校などの措置をとる自治体がある中、小野市は通常通り、教育活動を進めること

ができ、いつもの学校に一步近づくことができました。ありがたいことだと思います。そして、この新型コロナウイルス感染症拡大を受けて前倒しで進められた「GIGAスクール構想」により、令和3年3月までに「一人一台端末」の環境が小野市でも整備され、2021年は、GIGAスクール元年となりました。今、学校ではこの端末をほぼ毎日使うのが当たり前になっています。大きな教育環境の変化です。「個別最適な学習」と「協働的な学び」の実現に向けて大きく動き出しています。

2022年、 新しい一年の始まり!

★令和の日本型教育の推進、「二つの学び」

令和4年のスタート。さあ、いよいよ新しい一年の始まりです。新型コロナウイルス感染症については、厳しい状況が今後も続いていくことでしょうか。しかし、悲観ばかり不安ばかり、心配ばかりしていても何も始まりません。しっかりと前を向いて力強く進んでいきたいと思えます。新しい年はスタートし、ひと時も休むことなく、時を刻み進んでいきます。**2022年が全ての人々にとって、輝かしく幸せな一年になることを願ってやみません。**

子供達にもしっかりと未来を見て欲しいと思っています。令和3年1月26日、文部科学省が中央教育審議会答申『**令和の日本型学校教育**』の構築を目指して、全ての子

供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現』が発表されました。この中の「**個別最適な学び**」とは、「個に応じた指導」(指導の個別化と学習の個性化)を一層充実させること、「**協働的な学び**」とは、子供達の学びが「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習、体験活動等を通して子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら必要な資質・能力を育成することです。そして、**全ての子供達の可能性を引き出す、この「二つの学び」を実現する**ためには、ICTは必要不可欠であるとしています。これからは、いや、既に、予測困難な激動の時代です。そのような中、豊かな人生を切り拓き、誰もが、自ら課題を見つけ、自らその解決に向け考え、自ら行動していく、自立した人間となることを目指さなければなりません。そのことを一年の初めにあたり、その覚悟と決意を新たにしたいと思います。新しい年も「**ウイズコロナ**」の状態が続きます。中番小学校としては、「**学校の新しい生活様式**」を継続、その感染を可能な限り防ぎながら、この状況に対応し、**子供達の学びが決して滞ることがないよう、確実に進めていくことが重要な使命である**と考えています。その為には、保護者の皆様、地域の皆様との連携を今まで以上に密にしながら、今後も教育活動をさらに進めていきたいと考えております。この厳しい事情・状況をご理解いただくとともに、今年も一年、地域の学校として、あたたかく見守っていただき、これからも中番小学校への変わらぬ深い愛情とご理解、あたたかいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。